

## 第23回家族社会学セミナー

第23回家族社会学セミナーは、7月23日（月）～25日（水）まで福岡市の福岡ガーデンパレスで約130名の参加のもとで開催された。今年のセミナー実行委員長は、篠崎正美（聖マリア学院短期大学）であった。

セミナーは、この2年間、総合テーマ「今、家族に何が起きているか」をめぐって討論を積み重ねてきたが、今年はその総括の年にあっており、総合テーマの副題を「家族変動の理論化と実証をめざして」とし、3日間活発な議論が展開された。

3日間の議論のなかで、とくに目立ったのは、家族収斂論に対する批判、人口高齢化と家族とに対する問題関心、社会史、フェミニズム論の影響を受けた新しい家族研究ないしは家族の理論化、家族の個人化といった諸点であった。

3日間の報告テーマと報告者および討論者は、つぎのとおりである。

第1日（7月23日〔月〕 13:00～17:00）

テーマに関連する自由報告

1. 韓国社会の家族変動について……………山中美由紀（龍谷大学）
2. 家族の私事化に関する実証研究……………磯田 朋子（活水女子短期大学）
3. 共働き家族の親子関係——動向と理論的整理——……………長津美代子（青葉学園短期大学）
4. 近代社会における『夫婦』の情緒的意味……………山田 昌弘（東京学芸大学）
5. ひとり暮らし高齢者の社会的ネットワーク……………安達 正嗣（兵庫県家庭問題研究所）

第2日（7月24日〔火〕 9:00～12:00）

テーマ：「近代家族」論をめぐって

1. 『近代家族』概念は家族研究に何をもたらすか……………落合恵美子（同志社女子大学）
2. 近代日本の家族——歴史社会的アプローチの試み——……………牟田 和恵（佐賀大学）
3. 家族構造とその変化の地域性  
——厚生省人口問題研究所調査の分析を中心として——……………清水 浩昭（厚生省人口問題研究所）

第2日（7月24日〔火〕 13:00～17:00）

テーマ：家族の個人化と多様化をめぐって

1. 個人のライフコースと家族——家族変動のパラダイム探求——……………目黒 依子（上智大学）
2. 現代日本農村の家族——家族農業の『崩壊』と『個人化』——……………松田 苑子（清泉女子大学）
3. 現時点の都市家族——札幌・仙台・福岡の場合——……………三谷 鉄夫（北海道大学）

第3日（7月25日〔水〕 9:00～12:30）

総括討論

1. 野々山 久也（甲南大学）
2. 袖井 孝子（お茶の水女子大学）
3. 飯田 哲也（立命館大学）
4. 鈴木 広（九州大学）
5. 森岡 清美（成城大学）

当研究所からは、伊藤達也、渡邊吉利、清水浩昭が参加した。

なお、家族社会学セミナーは、来年度から日本家族社会学会（仮称）として活動する予定である。

（清水浩昭記）